

総務経済委員会行政視察報告

視察第 1 日 宮城県名取市 令和6年7月2日（火）

●視察先・視察項目

宮城県名取市

「スマートインターと周辺地域振興策について」

名取市の概要

名取市は宮城県の中央南部に位置し、岩手県仙台市に隣接している。西部はなだらかな丘陵地、東部は太平洋に面し、東北の中では雪も少なく温暖で過ごしやすい気候である。東北の空の玄関口である仙台空港、東北本線、仙台空港アクセス線、国道4号線などの道路網・交通網が発達し、仙台市のベッドタウンとして人口増を続ける中であって、自然環境ともほどよく共存するまちである。

2011年の東日本大震災では大きな被害を受け、閑上地区など沿岸部を中心に、900名以上の住民の方々が犠牲になり、4,000戸以上の家屋が被害にあった。

人口と面積（令和6年5月末現在）

○人 口： 79,839 人
（県内35の内 4位）

○面 積： 98.18 km²
（県内35の内 17位）



1 視察目的

本市では、令和3年8月に国土交通省の事業化が決定された豊橋新城スマートインターチェンジ(仮称)について、周辺地域を本市の新たな玄関口として、周辺の利便性・優位性を最大限に活用し地域の活性化を図るため、令和4年度よりスマートインターチェ

ンジ周辺地域の振興策の検討を進めている。平成29年に開通した名取中央スマートインターの事例を学ぶことで、今後、本市がスマートインターの整備効果を最大限発揮させ、市全体の発展と八名地区の振興につなげていくことを目的とする。

2 視察内容

①名取市の都市計画と名取中央スマートインター周辺地区

【名取中央SIC周辺の土地利用について】事業の概要

- ・平成29年に名取中央スマートICが共用されたことにより仙台東部道路とのアクセス向上、産業基盤形成の適地として仙塩広域都市計画区域MPに位置付けされる。
- ・杜せきのした地区、飯野坂東部地区仙台東部道路にかこまれた農地(名取中央スマートIC周辺)で土地区画整理事業(組合施行型)を行い、新たなまちを形成するもの。
- ・2022年に組合設立準備委員会が発足、2024年度の市街化区域編入、2025年度の工事着工を目指し準備中。

【市街化区域編入面積】 約54ha

【事業面積】 約45ha

【用途】 住居系、産業系、商業系

【計画人口】 約1,900人

【計画世帯数】 約760世帯

【事業期間】 2025年度(R7)～2030年度(R12)*予定

名取中央スマートインターチェンジ土地利用 市内4地区

土地区画整理事業					
地 区	市街化編入面積	用途	計画人口	計画世帯	事業年次
高館熊野堂・吉田	27.2	住宅・商業	1,000	400	08～14
上余田	11.6	住宅	900	350	08～14
増田 西	45.9	住宅・商業	2,000	800	07～14
名取中央SIC周辺地	54.1	住宅・商業・工業	1,900	760	07～12
計	138.8		5,800	2310	
面積 ha 人口 人					

(資料：名取市)

②名取中央スマートインターチェンジについて

(事業概要)

事業概要

仙台東部道路 名取中央スマートインターチェンジ開通
平成29年3月18日(土) 15時～

名取中央スマートICは、上り線と下り線の出入り口が異なるICです。「仙台方面」と「いわき方面」に注意してください。

スマートICはETC専用のインターチェンジです。
●ご利用にあたっては、ETC車載器にETCカードを挿入して通行してください。
●スマートICの開閉バーの前では、必ず一旦停止してください。
●開閉バーが動かない場合は、係員にお知らせください。

開閉バー手前の停止線で必ず一旦停止
車載器にカードが正しく挿入されているか確認を!

名取市 NEXCO 東北

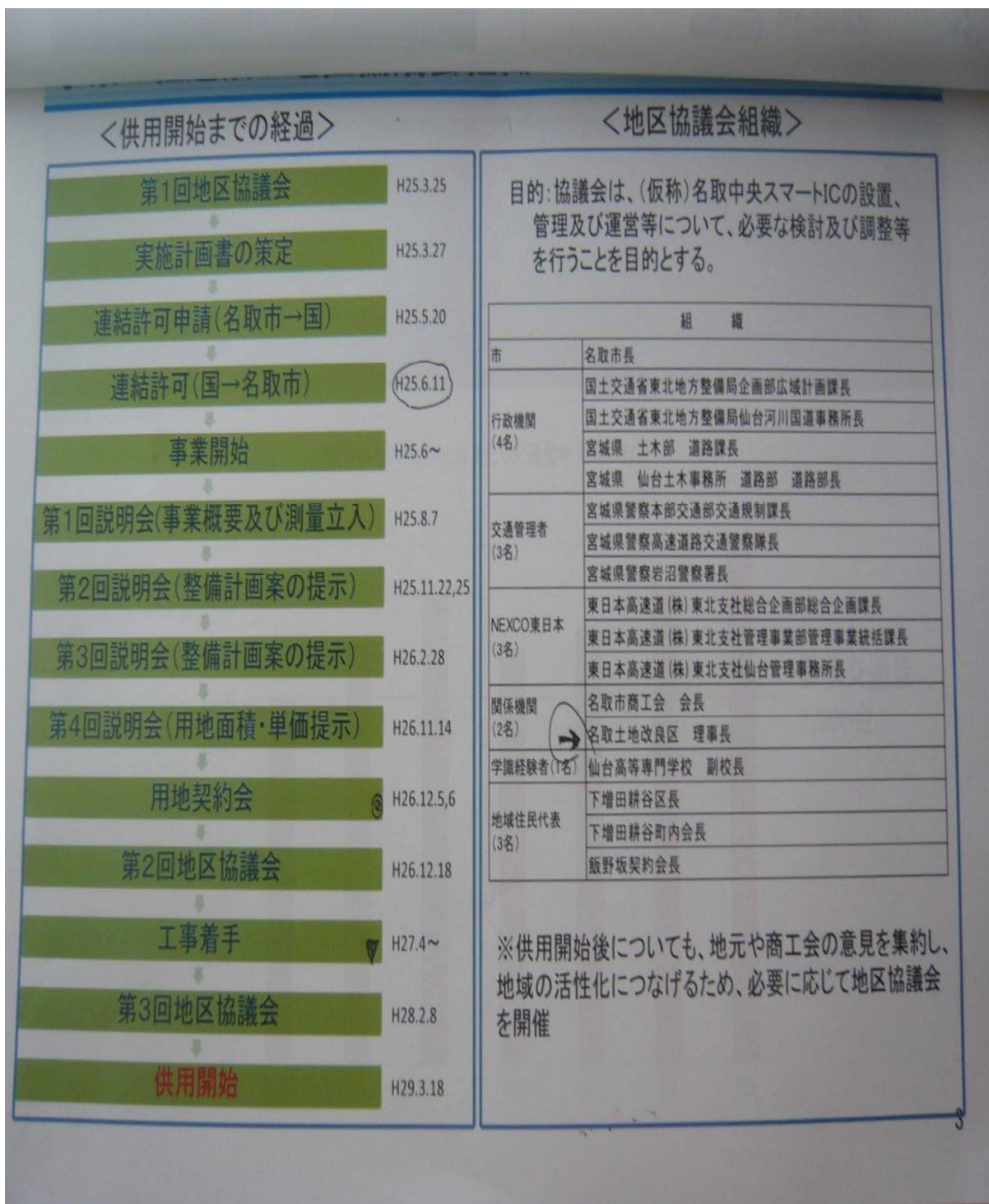
2

(資料:名取市)

- ・ 仙台東部道路名取インターを基点に、4.4 kmの地点に名取中央スマートインター、そこから2.3 kmの地点に仙台空港インターがある。
- ・ 仙台東部道路に直角する市道に対して、2ヶ所の出入口を整備。
- ・ 平成29年3月18日に開通。
- ・ 総事業費 約27億円



(事業の経過及び地区協議会組織)



(資料：名取市)

- ・地区協議会は、平成25年3月に第1回地区協議会を開催し、供用開始後も年1回開催し、スマートインターチェンジを活用したまちづくりについて協議している。
- ・平成25年8月の第1回地元説明会から、計4回の地元説明会を開催している。

(整備効果)

【実施計画より抜粋】

①震災からの経済復興

新産業ゾーンへの高速アクセス性の向上、物流拠点機能強化や企業誘致による雇用促進。

②高速道路利用者の利便性向上

名取駅周辺の市中心部及び新市街地からの高速道路の利便性向上、通勤や買い物、レジャーなど居住者や来訪者にとっての広域活動の活性化。

③市内幹線道路の渋滞緩和

一般幹線道路から高速道路への広域交通転換が図られ、市内の慢性的な渋滞箇所の混雑緩和。

④救急医療への支援

輸送時間の短縮や安静走行が可能となり、救急医療活動への支援効果が期待。



3 質疑応答

- ① 事業が早く進んでいるように思うが、震災復興があった中で早く進んだのか。

回答：もともと前から構想があったところに震災が起こった。大きいのは、杜せきのした駅ができ、鉄道網の整備によりまちができた。その後、スマートインターも近いことで期待も高まり産業系がきたもの。

- ② もともとポテンシャルがある状態ができあがっていたから、スマートインターができた後にまちが伸びたのか。それともそこに市が狙って絵を描いたのか。本市の場合は、狙って絵をかかないとうまくいかないと思う。それだけでは人は来ないし、名取市のように利用者数が増えるとは思えない。本市でも産業をどう増やすとかこの地域の振興をどのようにするかといったプロジェクトチームを若い職員たちで検討を進めているところではある。

回答：スマートインターができてから、後追いで民間の方が動く。

- ③ これから4地区で区画整理事業をやっていくということだが、市の体制として専属の課があるのか、これから作るのか。

回答：これまでは都市計画課でやっていたが、昨年、都市開発課ができた。今後はそちらで取り組み、道路等は各部署が担当する。

4 所 感

本市とは人口も異なり、特異な条件でのスマートインター開設となっている。仙台東部道路の名取インターを基点に4.4kmの地点に名取中央スマートインター、そこから2.3kmの地点に仙台空港インターがある。これほど近い位置でのスマートインターの設置は、仙台市と名取市の間の慢性的な渋滞迂回が出ることが実証実験で確認され、地域の交通アクセス向上が期待されたことによるものである。

また、市の中心部に位置する名取中央スマートインターの近隣には東北最大級のイオンモールもでき、山形県・福島県等の隣県からの来客も多く賑わっているとのことである。

区域の定期見直しについて農政局との協議も済ませており、集団優良農地を含まない

土地（この地域は農業振興地域であるが、平均収量下降している。）が、令和7年5月頃に区域変更告示とのこと。事業を確実に進めるべく、新市街化整備構想にて令和7年5月に市街化区域編入、組合設立、令和7年度に工事を開始し令和12年度には事業完了予定とのことで、農地転用手続きを令和7年8月頃とする市の実行力、首長のリーダーシップが強いと感じた。また、スマートインターチェンジ周辺地域のまちづくり・土地利用に関する開発事業を組合施行型で進めていることも興味深かった。

本市は南に東名高速道路、北に新東名高速道路があり、令和8年に供用開始予定の豊橋新城スマートインター(仮称)が、本市の発展と八名地区の地域振興を図る千載一隅の絶好の機会と捉える。共同歩調で進んでいる豊橋市とさらなる連携のもと、着実な豊橋新城スマートインター(仮称)周辺地域活性化構想（案）の具現化に向けた行動が重大となってきている。

令和6年4月16日から5月17日に行われた新城スマートインター(仮称)周辺地域活性化構想（案）に対するパブリックコメント結果で、「八名地域全域を地域振興事業の検討範囲とすべき」という意見に対し、「インターから2kmの範囲が最大限の効果が出る範囲」との市の考え方が示された。活性化構想が具現化した時に、本市と八名地区の賑わいの創出につながるか危惧するところである。今回、名取市より学んだことを参考に、今後も本市のスマートインター開設事業に傾注していきたい。

（担当：山口洋一）